

# 第5回常願寺川、神通川、庄川及び小矢部川等 大規模氾濫に関する減災対策協議会

## 議事概要

開催日時：令和元年6月6日（木）15：00～16：30

場所：富山県民会館 401号室

議事：1. 開会

2. 議事

（1）規約の一部改正

（2）幹事会報告

（3）各流域の減災に係る取組方針の追加案について

（4）各流域の減災に係る取組方針に基づく状況報告について

3. その他報告事項

4. 閉会

### 議事概要

#### <規約の一部改正について>

- 事務局より、緊急行動計画の改定（平成31年1月）に伴い、取組の1つである「土砂災害への対応」が必要となったことを受け、本協議会の構成員に「富山県土木部砂防課」、オブザーバーに「国土地理院北陸地方測量部」、「北陸地方整備局立山砂防事務所」、「北陸地方整備局神通川水系砂防事務所」を加えることを提示した。
- 所属機関の機関名を更新した。
- 提示した規約改正について了承された。

#### <幹事会報告について>

- 事務局より、平成31年2月12日に開催された第5回幹事会の内容について説明した。
- 内容について了承された。

<各流域の減災に係る取組方針の追加案について>

- 事務局より、各流域の減災に係る取組方針の追加について説明した。
- 内容について了承された。

<各流域の減災に係る取組方針に基づく状況報告について>

- 事務局より、各流域の減災に係る取組方針に基づく対策の実施状況について説明した。
- 富山県より、県管理河川における取組方針に基づく対策の実施状況について説明した。
- 内容について了承された。

#### 【質問】

(富山地方气象台)

- 平成 30 年 7 月豪雨の際には富山県でも庄川（大門地点）で観測史上 2 番目の水位を記録したということですが、県内関係機関による洪水への対応能力にはまだ余裕があったのでしょうか。

(事務局)

- 観測史上最大となった平成 16 年台風 23 号より流量規模は小さかったが、余裕があるとは決して言えない状況だった。  
更に庄川や神通川は急流河川のため、川の流量が大きくなかったとしても流れが強いことから堤防が欠け、そこから決壊してしまうリスクがある。  
実際、昨年度庄川や神通川では河岸が大きく欠けたところが多く見られた。

(富山地方气象台)

昨年度の西日本における大雨災害のように長時間に一定の広がりのある範囲で大雨が降り続くと、場合によっては複数の河川が一度に危険な状態になることも考えられます。タイムライン等の検討の際には、そのような状況も想定されていますか。

(事務局)

- 現段階の想定の中では、複数河川が同時に危険な状態になるような細かい点までは検討に至っていない状況である。
- 昨年度の西日本豪雨などの実績を踏まえて、今後考えていかなければならない課題だと認識している。

<その他報告事項>

(富山県砂防課)

- 「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた」取組状況について説明した。
- 土砂災害に対する取り組みについて説明した。

(富山地方气象台)

- 防災気象情報と警戒レベルの関連(警戒レベル相当情報)について説明した。

(富山河川国道事務所)

- 「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画の改定について説明した。
- 防災・河川環境教育の充実に係る取組について説明した。
- 庄川・小矢部川タイムラインの検討専門部会の取組について説明した。
- 平成31年度庄川・小矢部川総合水防演習について説明した。
- 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策について説明した。

(国土地理院)

- 地理院地図を活用した防災への取組等について説明した。

【質問】

(富山地方气象台)

- 富山県における土砂災害に関する取り組みの中で、「8条避難計画作成済」ということですが、計画の実効性を担保するために工夫されている点がありますか。

(富山県)

- 市町村に支援いただくことでスムーズにいくと思っている。昨年、南砺市が要配慮者利用施設の管理者に対して働きかけをされたことがあった。計画を策定した後は、県や市町村が施設管理者に何か仕掛けていく必要があると思っている。

— 以上 —